

紋別市地域公共交通網形成計画（素案）概要版

1 計画の策定にあたって（本編 P1～P4）

背景・趣旨

■ 少子高齢化や人口減少などにより、生活の足である公共交通の利用者が減少し、この状況が続くと公共交通の維持が困難な状況であることから、まちづくりや福祉、教育、観光などと連携し、面的で持続可能な公共交通網の形成が必要である。

計画の位置づけ

- 「紋別市総合計画」を上位計画とする。
- 「紋別市総合戦略」、「紋別市都市計画マスタープラン」、「紋別市高齢者福祉計画」を関連計画とする。

計画区域及び計画期間

- 紋別市全域を計画区域とする。
- 計画期間は平成 30 年度から平成 39 年度までの 10 年間とする。

2 紋別市における地域公共交通の現状と課題（本編 P4～P14）

現状

- 人口減少と少子高齢化の進行
- 自家用車への依存度が高い
- 交通死亡事故における高齢者の第一当事者割合が高い
- バス利用者数の減少
- バスへの多様なニーズが存在する

課題

- 人口減少、少子高齢化等によるバス利用者の減少
- 将来に渡る持続可能な地域の「足づくり」
- 利便性の高い効率的な公共交通の実現
- 公共交通に関する市民意識の向上
- 利用しやすい環境整備

3 基本理念及び基本方針（本編 P15）

基本理念

次世代にわたり、「ひと」と「まち」を結ぶ
持続可能な公共交通の実現

基本方針

- 1 地域全体を見渡した持続可能な公共交通網の形成
- 2 地域特性を活かし、地域に根ざした「足づくり」
- 3 公共交通に対する市民意識の醸成
- 4 教育・福祉・医療等との連携
- 5 まちづくりや観光振興等と公共交通における一体性の確保

4 計画の主な目標（評価指標）（本編 P16）

計画の主な目標（評価指標）

1 市内循環線の利用者数

※現状値(H28) 39,404 人 → 中間目標値(H34) 45,000 人 → 最終目標値(H39) 50,000 人

2 上藻別デマンド線の利用者数

※現状値(H28) 2,546 人 → 中間目標値(H34) 3,000 人 → 最終目標値(H39) 3,500 人

3 乗ろうよバスの会会員における運転免許証返納率

※現状値(H28) : 1.6% → 中間目標値(H34) 10.7% → 最終目標値(H39) 16.4%

4-1 市内在住の紋別高等学校生のバス通学定期券利用者数

※現状値(H28) 54 人 → 中間目標値(H34) 100 人 → 最終目標値(H39) 120 人

4-2 高齢者へのバス料金助成制度利用乗車回数

※現状値(H28) 115,199 回 → 中間目標値(H34) 120,000 回 → 最終目標値(H39) 125,000 回

5-1 商店街連携活性化事業参加者数

※現状値(H28) 1,640 人 → 中間目標値(H34) 1,800 人 → 最終目標値(H39) 2,000 人

5-2 紋別観光周遊バス乗車人数

※現状値(H28) 2,584 人 → 中間目標値(H34) 3,000 人 → 最終目標値(H39) 3,500 人

5 目標達成のための施策・事業（本編 P17～P31）

主な施策・事業

1 持続可能な公共交通網の形成

- ・ 地域間幹線及び地域内フィーダー線への支援
- ・ 経路や時刻、バス停位置等の見直しの検討
- ・ 安全で快適な乗車環境の整備の検討
- ・ バスロケーションシステムやデジタルサイネージ導入の検討
- ・ 乗ろうよバスの会等公共交通支援組織の強化
- ・ 地域におけるワークショップの開催
- ・ バスの乗り方教室の開催 など

2 多様な公共交通網の実現

- ・ 貨客混載の拡大の検討
- ・ デマンド型タクシー導入の検討
- ・ 乗合タクシー事業導入の検討 など

3 公共交通の利用促進・活性化

- ・ IC カードの導入の検討
- ・ 公共交通マップ及び総合時刻表の作成
- ・ 商店街や観光施設等との連携事業
- ・ 1 日無料バス等のバス利用促進に向けた取組
- ・ 車内アナウンスの工夫
- ・ HP や SNS を通じた利用促進 PR など

4 教育・福祉・医療等との連携

- ・ 高校生への通学定期券購入費補助制度の継続及び拡大等
- ・ スクールバス混乗拡大及び路線バスでの車両使用の検討
- ・ 運転免許証返納者への特典
- ・ 高齢者等へのバスやタクシー運賃助成の継続
- ・ 幼児療育センターなどの福祉施設等との連携 など

5 まちづくり・観光振興等との一体性の確保

- ・ フリー降車導入の検討
- ・ バス停の新規設置や見直しの検討
- ・ 買い物支援サービスとの連携や買い物支援バスの運行の検討
- ・ 上渚滑地区商業施設の利用環境拡充
- ・ 外国人観光客への案内表示の充実
- ・ 企画乗車券の発売
- ・ 空港送迎バスの継続 など